

乳児 VK 欠乏性出血症患児の体重増加 についての考察

東邦大学

沢田 健, 高橋 玲子
月本 一郎, 塙 嘉之

はじめに

乳児 VK 欠乏性出血症の発症原因に関して VK の欠乏症以前に母乳不足が根底にあるのではないかとこの疑問があり今回第 2 次全国調査のデータから再考察してみた。

対象と方法

本研究班が実施した乳児 VK 欠乏性出血症に関する全国調査 (昭56.1 - 60.6) で集められた 1 次アンケートに基づいた。患児全体を A (特発性), B (続発性), C (ニアミス例) 群の 3 群に分けたうち, A 群の 351 例の中の日齢30日以上60日未満の 1 カ月児を対象とした。(N = 211) 男児144例, 女児60例, 性別不明7例。(表1)

これらの児の出生体重, 発症時体重から 1 日あたりの体重増加率を求めその分布について検討し, 又昭和55年度の厚生省児童家庭局「昭和55年乳幼児身体発育調査結果報告」のパーセンタイル値と比較し, 検討した。

結果と考察

1) 出生時体重の分布 (男女別)

図1にみられるように患児群では男女とも出生時体重の中央値は 3,000 - 3,249 gm にあり正常であった。しかし男児では 2,500 gm 未満の低出生体重児の占める割合が多く, 図4ではそれが 19% と正常対照群の 2 倍あることがわかる。

2) 発症時体重の分布 (男女別)

図2にみられるように発症時体重は本調査の対象が日齢30日から59日に限っているのだがその中央値は 4,000 - 4,249 gm にあり先程の出生時体重

の中央値からみると 1,000 gm 増加しており集団としては患児群の体重増加は正常と考えられる。

3) 体重増加率の分布 (男女別)

図3にみられるように男女とも発症までの体重増加率 (gm/日) は中央値を 21 - 30 gm に持ちこの時期の母乳栄養児としては正常と考えられる。体重増加率 20 gm/日未満の患児もいるが全体としては本症の発症原因を母乳摂取不良から起こったビタミン K 欠乏に特定することはできない。但し男女合わせて約 12% は体重増加率が 20 gm 未満であり母乳不足と考えられビタミン K の摂取も悪かったことが予想される。

4) 乳幼児身体発育値 (昭和55年) との比較

出生時体重の比較は先に述べた。発症時体重と厚生省, 乳幼児身体発育値 (昭和55年) 1 カ月以上 2 カ月未満との比較では図4にみられるように 10 パーセント以下の子が多いが患児群ではこの期間に限った場合発症日齢が日齢30日をピークに持ち59日に向けて下降する分布を取っているので一概に体重増加が悪いとはいえない。3) で述べたように患児群全体の体重増加はほぼ正常であると考えるのがよいと思われる。

結 語

乳児ビタミン K 欠乏性出血症が母乳栄養児に多発することから母乳の摂取不足がビタミン K の欠乏につながるのではないかと考え, 第 2 次全国調査で発症日齢30日から59日の患児を対象に体重増加率を検討した。

患児群の体重増加率は正常と考えられ本症の原因に母乳の摂取不足は少なくとも主因ではないと

考えられた。

表 1.

乳児VK欠乏性出血症患児の体重増加

対象：第2次全国調査（昭和56.1～60.6）

特発性（1次性）351例のうち

日齢 30日～59日の児

N=211 男児 144

女児 60

（不明 7）

乳児VK欠乏性出血症出生時体重の分布（g）

（昭和56.1～60.6）

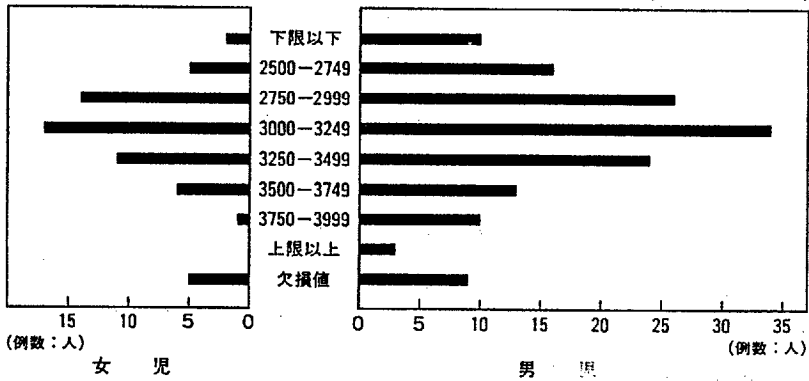


図 1.

乳児VK欠乏性出血症発症時体重の分布 (g)

(昭和56.1~60.6)

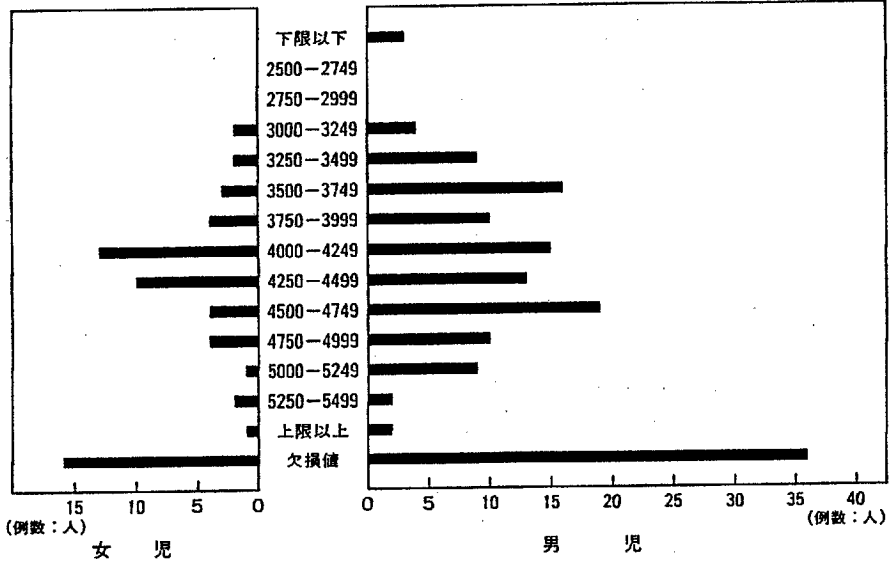


図 2.

乳児VK欠乏性出血症体重増加率の分布 (g/日)

(昭和56.1~60.6)

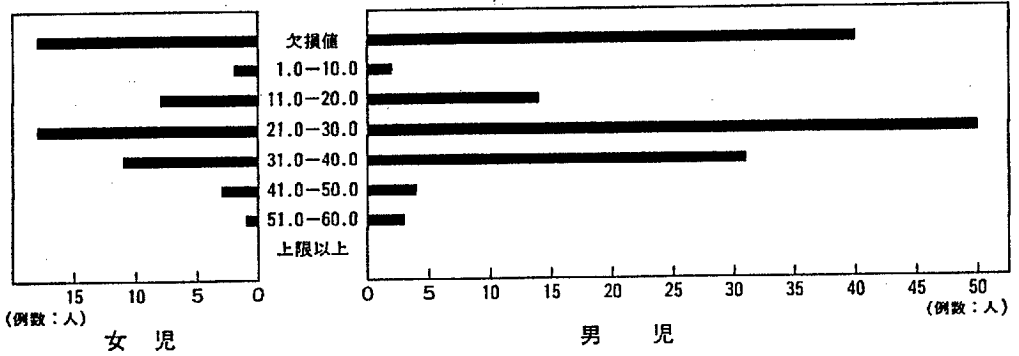
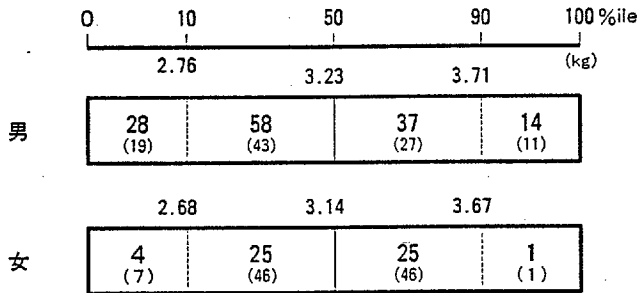


図 3.

乳幼児身体発育値(昭和55年)との比較

出生時体重の比較



発症時と1-2月未満の比較

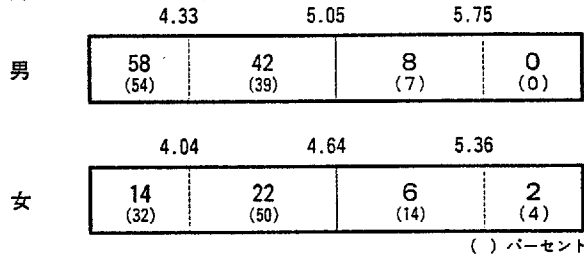
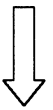


図 4.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

乳児 VK 欠乏性出血症の発症原因に関して VK の欠乏症以前に母乳不足が根底にあるのではないかという疑問があり今回第 2 次全国調査のデータから再考察してみた。